

---

# 紅

紅の雲雀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅

### 【コード】

N4569P

### 【作者名】

紅の雲雀

### 【あらすじ】

髪の色赤。

目つき最悪。

そんな紅は三ノ宮の養子になった。

それから5年後。

紅はお金持ちが通うことで有名な御門学園の高等部に入学した。

そんな彼の普通で普通な、でもちよっぴり普通じゃない、普通の物語。

## プロローグ（前書き）

最近面白いのが書けないからテキストに新作を書いてUPします

## プロローグ

『そこのお主』

『そつそつお主じゃよ』

『やっぱりいい目をしておるのう』

『どうじゃ？ ワシの養子として家にこないか？』

『ワシの会社を継ぐ者がいなくてのう………』

『ん？ 安心せい。お主が継ぐのはまだまだ先じゃ』

『ワシもこの通り元氣じゃし………（グギッ）』

『うう………何でもない………これはなしじゃ………』

『さつきも言ったんじゃが。ワシの養子にならんか？』

その時俺は初めて俺のがいい目だと言われた

俺の髪は赤でそして目つきが悪い

そのせいか、俺の周りには誰もいない

それなのにこの爺さんは俺に話しかけてきた

少しの言葉だけど、俺はこの人に心を許してしまった

5年後

「お〜い、紅。準備はできたかのお？」

「ああ！ 俺はいつだって準備OKだ」

「そうかの。では行ってくるがよい」

俺は三ノ宮家の養子になって五年が過ぎた。俺、三ノ宮<sup>ほんのみやあか</sup>紅はこの春高校生になった。えーと、俺の行く高校はお金持ちが行く高校なのか？ 結構有名で校舎の他にも色々な施設があるらしい。

「それじゃあ、行ってくるぜ！」

こうして俺は家を出た

期待に胸を躍らせ歩いて行く

そして普通で普通な普通の俺の物語が始まる

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4569p/>

---

紅

2010年12月12日19時34分発行